

議会だより

78

のとちょう

2025. 5. 1

地震・豪雨からの復旧・復興に係る
令和7年度当初予算を可決!! …… 2-4

新設された予算常任委員会を開催
常任委員会レポート …… 5-6

一般質問 …… 7-13

新議員の紹介 …… 14

主な議会活動 …… 15

まちかどインタビュー
編集後記 …… 16



能登町議会へようこそ

柳田植物公園イングリッシュガーデンの
白いバラ（写真提供：能登町写真クラブ）

からの復旧復興経費として に681億5000万円を計上

一般会計予算額	681億5000万円
	(うち地震分：440億7956万円)
	(うち豪雨分：102億8342万円)
前年度比	+463億3000万円 (+212.3%)
特別会計予算額	57億1406万円
前年度比	+4965万円 (+0.9%)
企業会計予算額	98億7347万円
前年度比	+34億8555万円 (+54.6%)

予算規模総額	837億3753万円
前年度比	+498億6520万円 (+147.2%)

令和7年第2回能登町議会3月定例会議を3月3日から13日にかけて開会し、町長提出議案33件、人事案件1件が提出された。議案は令和7年度の当初予算のほか条例改正や請負契約の締結などであり、予算に関する議案は新設された予算常任委員会、その他の議案は総務産業建設・教育厚生常任委員会それぞれ審査し、全議案を可決した。人事案件につ

いては、初日に採決し同意とした。最終日には請負契約の締結にかかる追加議案2件と議会提出議案として条例改正2件が追加提出され、原案を可決した。11日には7人の議員が町政全般について一般質問を行った。

令和7年度の主要事業

①インフラの早期再生と強靱化 (347億4678万円)

●能登半島地震災害復旧事業

- ・道路災害復旧費：135億5000万円
- ・白丸漁港海岸高潮対策事業：8400万円
- ・農地災害復旧費：3億7000万円
- ・農業用施設災害復旧費：32億4000万円
- ・林道災害復旧費：2億1000万円
- ・災害関連事業（林地崩壊防止事業）：2億8610万円
- ・漁港等災害復旧費：20億円



地震による道路災害

●奥能登豪雨災害復旧事業

- ・道路災害復旧費：2600万円
- ・河川災害復旧費：82億7000万円
- ・砂防施設災害復旧費：1200万円
- ・農地災害復旧費：10億5000万円
- ・農業用施設災害復旧費：6億4000万円
- ・林道災害復旧費：8000万円
- ・林地崩壊防止事業：4707万円



豪雨による河川災害

能登半島地震、奥能登豪雨 令和7年度 一般会計予算

令和7年度の主要事業

● ライフライン・公共施設等の復旧・強靱化

- ・水道施設災害復旧費：8億723万円
- ・下水道施設災害復旧費：33億5844万円
- ・能都埋立処分場災害復旧費：2億8587万円
- ・衛生センター災害復旧費：4848万円
- ・こどもみらいセンター災害復旧費：1133万円
- ・コミュニティカーシェアリング事業：54万円



道から浮き出たマンホール

② 暮らしと地域コミュニティの再建 (156億4638万円)

- ・災害廃棄物処理事業（能登半島地震）：140億円
- ・災害廃棄物処理事業（奥能登豪雨）：4800万円
- ・被災者見守り・相談支援等事業：1億2278万円
- ・住宅復旧支援事業：2億4000万円（準半壊：30万円、一部損壊15万円）
- ・がけ崩れ対策事業：9900万円
- ・被災宅地等復旧支援事業：1億2500万円
- ・定住住宅助成金：9365万円
（住宅の新築、中古住宅の購入等の費用の一部を助成）
- ・【新】墓石等復旧支援事業：1億4800万円
（被災した墓石の復旧や移設、新規建立に係る費用の一部を補助）
- ・災害公営住宅整備事業：1億4415万円
- ・【新】白丸地区高台移転事業：4000万円
- ・公園等再整備事業902万円（遠島山公園の再整備）
- ・被災集会所更新事業：1億4722万円
- ・【新】秋吉公民館更新事業：2億6765万円



墓石等の復旧（イメージ）

③ 生業（なりわい）の再建 (16億7003万円)

- ・農業機械再取得等支援事業（能登半島地震）：14億6520万円
- ・農業機械再取得等支援事業（奥能登豪雨）：9000万円
- ・農地等手作り復旧支援事業：500万円
- ・【新】農業経営収入保険加入促進補助金：144万円
- ・【新】社宅整備事業：4800万円
- ・町営業再開支援補助金：1136万円
- ・町なりわい再建支援補助金：2091万円
- ・町小規模事業者持続化補助金：1000万円
- ・町中小企業者持続化補助金：300万円
- ・創業・継承支援事業：1512万円



農業用機械（イメージ）

令和7年度の主要事業

④安心して暮らし続けられるまちづくり（28億3182万円）

- ・学校給食費助成事業：2008万円
- ・【新】松波小学校新築復旧事業：22億5492万円
（新築工事費、仮設校舎・体育館賃借料、旧松波小解体費）
- ・能登高校魅力化事業：5184万円
- ・被災者生活再建支援事業：9325万円
（被災者の生活再建支援や相談体制の強化）
- ・【新】福祉避難所等機能強化事業：1000万円
- ・企業版ふるさと納税推進事業：225万円
- ・満天星天体ドーム更新事業：182万円
- ・社会教育施設の復旧・活用事業：1億1100万円
（真脇遺跡縄文館やドブネ収蔵庫等の災害復旧費）
- ・【新】令和6年能登半島地震検証事業：1210万円
- ・【新】指定避難所強化事業：7358万円
（スペアキー保管BOX設置、テント式パーティション等購入）
- ・【新】防災備蓄計画改定事業：539万円
- ・【新】災害支援車両（給水車）購入事業：2500万円
- ・【新】小木分団詰所更新事業：8390万円
- ・【新】宇出津分署改修事業：319万円



仮設校舎となっている松波小学校



給水車（イメージ）

⑤復興プロジェクトの創出（2億388万円）

- ・【新】まちづくり担い手育成事業：380万円
- ・【新】官民連携推進事業：397万円
- ・ふるさと能登町応援寄附事業：1億6664万円

その他の主な議案

○請負契約の締結

- ・令和6年度 町道1級藤ノ瀬字加塚1号線道路災害復旧工事 北川ヒューテック株式会社
- ・令和6年度 町道鵜川矢波1号線道路災害復旧工事 島屋建設株式会社
- ・令和6年度 町道恋路1号線道路災害復旧工事 株式会社ソテック

○農業委員会委員の任命 影田 伸幸 氏（当目）

議会提出議案

- ・能登町議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例について
- ・能登町議会委員会条例の一部を改正する条例について

1月会議

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した支援事業の追加、能登半島地震で被災した学校施設の災害復旧費などを補正。また人事院勧告による人件費の調整と条例改正を行った。

予算常任委員会

志幸 松栄 (委員長)
向峠 茂人 (副委員長)
(委員は議員全員)

第3次総合計画の策定の業務委託内容は。

現状把握と課題の把握、

第2次総合計画の評価を行う。策定委員会を設け幅広い意見を踏まえて「まちづくり」への方向性を作り上げる。総合計画に精通した業者を選定したい。

屋内遊具の整備事業の場所は決まっているのか。

柳田植物公園を予定している。公募型プロポーザルを実施し、アイデアを募集したい。

集落支援員制度の具体的な支援とは。

きるのではないか。

学校給食の調理業務を委託するため、職員の人件費の減額が主な要因である。委託業務は2学期から委託費は今後、増額となる見込みである。

定任促進協議会に集落支援員を配置し、移住定住に向けた取り組みを行う。地震や豪雨災害により、集落で抱えている課題や困りごとを把握し、集落の活動を助け活性化

する支援を行う。

公用車管理費の増額について、何台増えたのか。

公用車は120台で昨年度と比べて35台増加している。

消防団員の雨衣等の購入費を計上している。

学校給食費の減少した理由は。また減少した分にあと少し増額すれば、給食費の完全無償化がで

白丸漁港海岸高潮対策事業の進捗状況は。

令和7年度は193mの延長部分に消波ブロックを572個設置し、護岸工事は33mの施工の予定である。令和8年度に完成予定である。

墓石等復旧支援事業について、墓石の補修はどこまで含まれるのか。また墓を2基以上所有している場合は申請できるのか。

墓石及び付帯している石板、門柱、羽目など一体となった構造物も含まれる。墓が数基ある場合、費用を合算して1世帯1回限り申請することができる。

白丸団地の測量費について。

白丸地区の集団移転に係る実施設計費を計上している。白丸公民館の上の台地を予定しており、集落と協議を進めている。

災害公営住宅整備事業の公有財産購入費について。

災害公営住宅の建設が決定している天坂地区の土地の購入費である。

住宅整備事業は何室を予定しているのか。

住宅建設の際は4戸以上の住宅を想定しており、現在のところ4社から相談を受けている。

自主防災組織の育成事業の減額の要因は。

実績により、減額するものである。

災害対策費の備品購入費の詳細は。

避難所の環境改善と、被災自治体支援のため、トイレカー1台、テント式パーティションを600セット、簡易ベッドを1200セット整備する。

農地等手作り復旧支援事業として500万円計上されているが、事業内容は。

被災した農業者が復旧工事を待たずに自力で復旧する際の補助金である。



予算常任委員会委員会の様子

総務産業 建設委員会

馬場 等 (委員長)
小浦 肇 (副委員長)
吉田義法 南 正晴
酒元法子 河田信彰
志幸松栄

Ⓔ 防災告知機設置の請負契約の締結の変更は4700万円の契約に対し、6000万円を増額している。その理由は。

Ⓕ この契約は、応急仮設住宅の有線・インターネット回線の工事費である。当初は仮設住宅の戸数が未確定であったため、概算で設計を進めた。完成した時点で増えた戸数分を追加したため、増額の変更契約となった。

Ⓖ 復興住宅課の新設により、住民目線での対応が可能となるのか。

Ⓔ

建設水道課は、建設・道路・河川・治山・砂防等と上下水道に関する業務に絞り、今後は災害公営住宅や町営住宅に関することを復興住宅課に集約一元化する。暮らしの便利帳やガイドブック等の冊子を通じ周知を図る。

Ⓕ

現在は応急復旧となっており、今回の工事によって被災前の状態に原形復旧するための本工事を行う。

Ⓖ

能登町は自営線で町完結の有線放送であり、珠洲市などは能越ケーブル

Ⓔ ネット株式会社が入っており運用の仕方が違う。

Ⓕ 消防本署機能の移転スケジュールは。

Ⓖ 令和7年度に実施設計

教育厚生 委員会

市濱 等 (委員長)
小路政敏 (副委員長)
田端雄市 金七祐太郎
向峠茂人 鍛冶谷真一

Ⓔ 国民健康保険税条例の一部改正について、所得者の基準はどうなっているのか。

Ⓕ 今回の改正は、高額所得者への負担を増額し、低所得者の基準を上げることにより負担軽減を図るものである。

Ⓖ 真脇遺跡縄文館の入館

Ⓔ を行い、9月には工事費を補正したいと計画している。令和8年度の春から宇出津分署に本署機能を移転し運用を開始したい。

Ⓕ 料が300円とあるが、年間の収入はどれだけか、また、職員数は。

Ⓖ 令和6年2月末までの入館者数は、1176名、入館による収入は、26万円



真脇遺跡縄文館

Ⓔ 7千円である。職員2名、会計年度任用職員5名で運用している。

Ⓕ ドブネ収蔵庫は、震災前までは避難所に指定されていたが、今後この施設は避難所の指定から外す予定か。

Ⓖ ドブネ収蔵庫は、旧真脇小学校の隣にある建物で、避難所としての指定は旧真脇小学校の方である。今後、旧真脇小学校を避難所として指定するか総務課危機管理室で見直し等を行うこととしている。

Ⓕ 坂垣道、益谷秀次、西谷啓治の文化財資料の保管について、教育委員会の見解は。

Ⓖ 施設条例を改正し、旧真脇小学校は、文化財収蔵庫として活用していく。また、展示スペースも作り、能登町の美術品や郷土品の保管、収蔵する施設として運用していきたい。

Ⓔ この3月に小木中学校が廃校となった。統合先の学校名の検討はどうなっているのか。

Ⓕ 小木中学校を統合する際に学校名の検討を行った。松波中学校が令和9年に、その後、柳田中学校も統合予定である。町内で1つの中学校になった際に、校名、校歌、校章を変える予定である。

Ⓖ 小木校舎の利活用について、どの課が管理していくのか。

Ⓕ 教育委員会が窓口となり、ふるさと振興課や企画財政課、総務課等も一緒にやっていく。利活用は今後の検討課題である。



小木校舎

いっぱん質問

議員が、町の一般事務に対してその執行の状況または将来の方針、政策的提言や行政への批判などを執行者に直接質問することです。

3月定例会議の一般質問（11日）

問 全天候型遊戯場整備を問う

答 柳田植物公園に整備する



おうら 小浦 はじめ 議員

問 ①地区懇談会で要望があった全天候型遊戯場整備を問う。

答 町長 ①柳田植物公園は、町内各地や珠洲市・輪島市など近隣からも非常にアクセスしやすい場所であることから、屋内遊具を備えた全天候型施設の整備を計画している。柳田植物公園を遊び場の核として、利用者が集い楽しめる場となることを目指す。

問 関係人口獲得の考え方を問う

答 途切れることなく関係を維持する

問 復興に大きな役割を果たす関係人口の獲得に向けた考えは。

答 町長 被災後、何度も当町を訪れ、集落に溶け込んで活動し、町の活性化に貢献している個人や団体とのつながりを途切れさせることなく継続していきたい。その方々から避難所運営や災害時の対応スキルを取得し、他の被災地を支援する恩返しができるよう復興に努める。



柳田植物公園

問 担当課に関係人口を増やす具体策を問う。

答 ふるさと振興課長 町内事業者が、新規事業や販路開拓また経営改善を図るため、都市在住者の知見を活かすプログラム「地域外副業人材活用促進事業」で関係人口創出を図りたい。また「サテライトオフィス誘致事業」を推進する。集落支援員を新規に委嘱し、移住定住者の受け入れや環境づくりを支援すること

その他質問

④事業者の高齢化や担い手不足が著しい一次産業において共に創る復興を目指すビジョンとは。

答 町長 復興計画のなかで、能登牛・米・シイタケ・寒ブリ・イカなどの農林水産物の他、サクラマス・トラフグ・海ブドウやエビなどの養殖を含めた特産品開発とブランドイングを支援する。後継者の発掘として、定住促進協議会や漁協・農協・森林組合と連携しながら、プロモーションイベントに参加すると共に、県・県と連携し設備導入を図る。省力化を目指し、町の一次産業が有する可能性を最大限に発揮できるように施策を展開する。



ひがし 向峠 たかと 議員

問 道の駅「桜峠」の防災機能強化を

答 県と連携し再整備を進める

問 能登半島地震により、のと里山海道、珠洲道路は奥能登の重要な基幹道路として再認識された。道の駅「桜峠」は、能登町だけでなく、珠洲市や輪島市へ向かう支援の拠点や中継点として大きな役割を担った施設であるが、駐車場やトイレが被災し、十分に機能を果たすことができなかった。道の駅「桜峠」の建物の耐震化、無停電化など防災機能の強化に向けた再整備を行う必要がある。町長の覚悟は。



被災した道の駅「桜峠」

答 町長 道の駅「桜峠」の再整備について、震災前から機能拡充の要望を県に強く要望してきた。来年度、県の当初予算において、自立型のトイレ等の整備に調査設計費が計上されている。道の駅「桜峠」に物産館を運営している町としては、県と連携し再整備を進めたい。



解体工事予定の国民宿舎能登やなぎだ荘「御前」

問 国民宿舎能登やなぎだ荘は、良質な温泉で、町民のみならず、町外からも親しみ愛されている施設である。各種宴会や記念式典などが行われた「御前」は地域のにぎわい、利用者の憩いの場であった。地域住民は1日も早い再建を望んでいる。

答 町長 柳田温泉は、なめらかな肌触りと、湯冷めしない泉質で、町の自慢の温泉である。現在は応急復旧を行い、公費解体業者の受け入れと入浴支援を行っている。「御前」については、大規模な損壊により、解体を行う予定で、その場での再建は非常に困難である。公共施設個別施設計画の改定を計画しており、その中で近隣施設、類似施設との集約、機能の見直しを協議していく。できる限り、町民の皆様の望んでいる機能、役割をしっかりと聞きながら、進めていきたい。

問 やなぎだ荘の再建計画を示せ

答 個別施設計画を見直し協議する



ば 馬場 ひとし 議員

問 第二駐車場の貸し付けは適正か

答 余裕がある部分を貸し付けた

民間事業者への貸し付けが認められるのは、地方自治法に規定する敷地に余裕がある場合と決められている。役場第二駐車場について、町は余裕があると判断した数値的根拠を示せ。

答 総務課長

令和7年2月28日、確定申告受付会場がコンセールのとに設置されていた時の駐車台数を確認したところ、第一、第二駐車場合計で午前中は21台、午後では57台の空きがあった。貸し付けに関しては特段大きな問題が生じ

問

民間事業者への貸し付けが認められるのは、地方自治法に規定する敷地に余裕がある場合と決められている。役場第二駐車場について、町は余裕があると判断した数値的根拠を示せ。

ることはないと考え。なお、新設される施設の従業員や利用者の駐車ス

ペースは、近隣において事業者が確保すると聞いている。

問 第二駐車場の浸水リスクの周知は

答 事前協議において周知済みである

問

昨年9月22日に、梶川が増水し、第二駐車場は一時的に冠水した。町は当該用地が県の公表している梶川の洪水浸水想定区域図内にふくまれることとの説明を、事業者に行

答 総務課長

町は、事業者に対して、冠水の事実や石川県が公表した洪水浸水想定区域であることを契約前の協議において十分に周知している。施設の建設や運用については、事業者の責務として、浸水をはじめとすると様々な災害対応が検討されるものと考え



役場第二駐車場

町としても、事業者に対して、あらゆる場面で協議、助言、指導を継続し、利用者の安全・安心を第一に、その確保の一助になるように努める。

その他質問

能登町で半壊以上の比率が低いのは何故か。住

家被害での半壊以上の比率は、珠洲市が約7割、

輪島市が約6割、穴水町

が約5割に対して、能登

町が約2割と突出して低い

数字である。以前も同

様な質問を行ったが、そ

の時は税務課長による回

答だった。政治家である

町長の回答を聞かせて欲

しい。

答 町長

住家被害について、町全域でなく、市町境の内陸部の地区と沿岸部の被害が大きかった。他の市

町が、政治的な動きで半壊以上の比率が多いとい

うのは、私は違うと思っ

ている。国のマニュアルに基づいて判定を行って

国準半壊以下の新たな支援はあるか。国の補助金、県の復興メニュー、町の事業など、新たな支援策があれば教えて欲しい。

答 町長

国の補正予算で1000億のうち500億を県が基金化して、ある程度県のほうで自由に使えるメニューとしたということ、おそらく6月補正で何らかの支援策が出てくるのではないかと期待している。そうなれば、町でも早急に支援策にプラスした支援金を講じた



住家被害調査 (イメージ)



よしだ よしのり 議員
吉田 義法

問 希望に沿う災害公営住宅の建設を

答 様々な検討が必要

①仮設住宅の入居者等への意向調査の内容は、選択肢を広くとり対象者の本意を把握するものでなければならぬ。災害公営住宅は希望する地区にできる限り建設するべきだ。

②中心拠点や地域拠点での災害公営住宅の建設は、中心地に近い場所が望ましく、自力再建を望む世帯向けの分譲地も含めた団地を建設するべきだ。

③災害公営住宅のタイプには戸建てふうがある。払下げを希望する世帯があれば建設するべきだ。

問

答 建設水道課長

①固執はしていない。様々な検討が必要。

②市街地に近く生活しやすいところを中心に選定作業に入っている。宅地分譲については検討していないわけではない。



災害公営住宅の視察風景

答 町長

③払下げ用の戸建てふうを建設する場合でも、ある程度、戸数がまとまった方が公営住宅として望ましい。考えはゼロではない。

問 子育て環境の充実を図れ

答 恒久的支援を段階的に行う

問

①子育て世帯の負担軽減を目的に保育料の完全無償化と利用できる保護者の制限はせず、全ての子どもを受入れるべき。また、学校給食費の完全無償化を。

②子どもの体力向上と創造性を育むことを目的に、天候に左右されず利用できる屋内の遊び場が必要だ。

答 町長

①家庭で保育を行う世帯と均衡を図るため、一定の保育料を負担してもらっている。また、保育給付認定の基準に合致すれば入園が可能である。現在、こども園に通っていないのは、自分で子育てをしたい世帯と育児休暇を取得している世帯のみと認識している。緊急サポートとして、一時預かり

保育制度などで対応もしている。また、国は令和8年度からの小学校給食費の無償化について、制度設計をまとめる方針。動向を見据え、段階的に対応を見極めたい。



子育て世帯への支援を

答 教育長

②学校体育館を開放している。利用してほしい。また、令和7年度には、柳田植物公園内に屋内の子どもの遊び場を整備するための公募型プロポーザルを実施する。

その他質問

⑤高齢化により交通弱者が増えることが予想できる。現在、町内では路線バスその他、予約制乗合タクシーや一部の仮設住宅でコミュニティ・カーシェアリングを導入している。今後の町の対策について問う。

答 町長

町ではカーシェアリングの運営に掛かる費用を補助している。また、予約制乗合タクシーの利用者は年々増えており、利便性の向上に努める。今後は官民が一体となり持続可能な公共交通体系を充実させたい。



しこう しょうらい 議員
志幸 松栄

問 災害関連業者の運転に注意喚起を

答 安心・安全な廃棄物処理に努める

問

災害復旧や解体工事のために町外の業者やボランティアの方が多数入ってきており、そのおかげで、進捗が図られている。しかし、その中には、運転が荒く危険な目にあつたという声を町民から耳にする。道路には板クズ等の廃棄物が散乱していることもある。重大な事故が起きる前に、今一度、関連業者に安全運転の周知徹底をはかり、運転マナーについて注意喚起をするべきだ。

答 住民課担当課長

災害廃棄物について、町と契約している請負業者には常に注意や指導を行い、対応している。また、請負業者との定例会においても指示、指導を行っており、今後も安心、安全な災害廃棄物の処理に努めていきたい。



廃棄物を運搬する工事車両

問 鳳雛塾の今後の運営方針を聞く

答 能登高校の生徒へ注力する

問

鳳雛塾の運営がスタッフの不足により、縮小傾向にあると聞く。子どもたちは町にとつて大切な財産であり、町の鳳雛塾の予算は、未来へ向けた投資と言っても過言ではない。鳳雛塾の運営が良い方向へ向くように努力してほしい。

答 町長

能登高校魅力化プロジェクトとして運営しているまちなか鳳雛塾は、スタッフの人員不足により、令和7年度から中学生部門を終了し、高校生に注力する予定である。年間を通してスタッフの募集を行っているが、安定した人員の確保は困難であり、本来の目的である能登高校の生徒へ注力したいと考えている。なお、中学生の自主学習の場として無料開放日を設置する予定であるので、理解願いたい。

その他質問

④ 地震により、空き家や解体された家屋も増えている。街灯、防犯灯の管理体制を聞く。

答 総務課長

町が管理している道路照明灯、防犯灯は761基あり、故障や不具合は、その都度、修繕等を行っている。町内会で管理している防犯灯については、新設や修繕などの際は補助制度があるので、相談いただきたい。



まちなか鳳雛塾



みなみ まさはる 議員

問 農振除外の柔軟な対応を望む

答 原則転用はできない

問 復興まちづくりに向けた懇談会の資料によると、解体受付は736棟となっている。この中には、家を新築するため、農地を宅地に転用したいが、農業振興地域で転用の許可が出ない。そのため住宅の新築を諦める方もいると聞く。

答 農林水産課長 農業振興地域から除外できる条件が6つあり、それを満たして除外したとしても、転用する際にも様々な要件がある。震災特例等で緩和措置を望む声は多いが、農地転用は農地法で定められており、県や市町が特例を設ける事はできない。

農地を農業振興地域から除外し、宅地へ転用することは難しいと思われるが、この震災の後、能登町に住み続けたいと思っている方々の心情を思い、農振除外を弾力的に運用できないか。

被災以降、農地を活用した住宅の建て替えについて多くの相談が寄せられている。その都度、農地転用の条件を確認して対応している。住宅再建に向けて農地の活用を考えている方は、農林水産課まで連絡いただきたい。



ほ場整備された田園風景

問 公図の再確認及び訂正を望む

答 関係課と連携を図り修正する

問 課税対象となっている土地の公図が地権者の持っているものと違っている例がある。合併後に町が委託した業者の測量及び航空写真の確認の際に違いが生じたものと思われるが、地権者には瑕疵が無い。早急な訂正を望む。

答 税務課長 土地の公図修正は登記が行われたものについて法務局から税務課へ通知があり、それに基づいて公図修正を行っている。地権者が持っている公図や土地改良の換地図などと現在の公図に相違がある場合は、関係課と連携を図り修正を行う。



土地の測量 (イメージ)



たばた ゆういち 田端 雄市 議員

問 仮設住宅入居者へ光熱費の助成を

答 共有の集会施設の利用を奨励

問

災害後の生活環境の変化による災害関連死が注目されている。
厳寒や猛暑の中、エアコンの光熱費を心配し、使用を控えることが懸念される。光熱費を気にせず安全な生活を送るための助成を要望する。

答 町長

仮設団地内の集会施設の光熱費は、町の負担としているので、集会施設の利用をお願いしたい。また地域支えあいセンターなどの見守りの際にも、エアコンの適切な使用など声掛けを行っていききたい。



仮設住宅

問 補聴器の購入助成を求める

答 他の市町の動向を見て検討したい

問

前回の一般質問で補聴器の適正な購入のシステムが必要と訴えた。補聴器専門医や認定補聴器技師士の確保は十分に可能であることが確認できた。さらに購入の際、医療費の控除があることも知った。聞こえないことで認知症検査の結果が悪化することも分かっている。補聴器購入の適切なシステムの提供は、町の重要な事業と捉え助成すべきである。

答 町長

難聴により生活や暮らしの質が落ち、コミュニケーション力に支障をきたすことは理解している。国の制度で、ある程度以上の難聴の方は、身体障害者手帳を取得後に補聴器助成が行われている。補聴器対象とならない方について、全国一律での補助制度の実施が望ましいが、今後、他市町の動向を見て検討したい。



補聴器 (イメージ)

その他質問

④人手不足により、自治体職員の確保が厳しい状況にある。様々な工夫をして、人材を集めるべきだ。また職員の育成は、町長、課長の責務として、育てるべきである。採用年齢引き上げを検討し、会計年度任用職員の中から職員として登用することもあり得ると考える。人材を結集し住民サービスの向上をはかるべきである。

答 町長

自治体職員として、地域振興などに貢献する魅力を紹介したいと考えている。

職員の育成には、様々な研修を実施し、町政の発展の礎に取り組み。会計年度任用職員には、住民サービス向上のための業務を、多くの方に担っていただいている。住民サービスの維持を図るため、必要な職員の確保はしていきたい。

新議員の紹介

欠員となっていた能登町議会議員補欠選挙が行われ、松本光雄氏（恋路）が無投票で当選しました。

（任期は令和7年3月25日から令和8年10月31日まで）



まつもと 松本 光雄 議員

議会の組織

町議会議員補欠選挙により、委員会構成に変更がありました。
欠員となっていた常任委員会及び特別委員会の委員を選任しました。

総務産業建設常任委員会	委員	松本 光雄
予算常任委員会	委員	松本 光雄
議会運営委員会	副委員長	志幸 松栄
広報編集特別委員会	委員長	小浦 肇
	副委員長	小路 政敏
	委員	向峠 茂人

（令和7年4月15日から）

能登半島地震復旧・復興連絡協議会レポート

【第6回 令和7年2月21日開催】

町から状況報告

- ・能登町復興計画（最終案）について
- ・意見公募（パブリックコメント）の結果と回答について



能登半島地震復旧・復興連絡協議会の様子

議会からの質問等

- 仮設住宅の自治会での周知が足りない。
（除雪機の使用等）
- 仮設団地の除雪対策は。



町からの回答

- 連携を深めより情報を提供する。
- 道路は町が除雪する。自宅前の通路や駐車場は入居者が行う。



1月から3月の主な議会活動

1月4日	消防団出初式
1月12日	二十歳のつどい
1月17日	広報編集特別委員会
1月28日	石川県町村議会議長会臨時総会 (KKRホテル金沢)
1月30日	議会運営委員会・議員全員協議会 第1回能登町議会1月会議
2月21日	能登半島地震復旧・復興連絡協議会
2月27日	議会運営委員会
2月28日	議員全員協議会
3月1日	町制施行20周年記念式典
3月3日	第2回能登町議会3月定例会議 (議案上程)
3月4日	予算常任委員会(～5日)
3月6日	総務産業建設常任委員会・教育厚生常任委員会
3月11日	第2回能登町議会3月定例会議(一般質問)
3月13日	議会運営委員会・議員全員協議会 第2回能登町議会3月定例会議(採決)
3月26日	石川県町村議会議長会議長協議会 石川県市町議会議員公務災害補償等組合議会定例会 (KKRホテル金沢)

令和7年出欠状況表

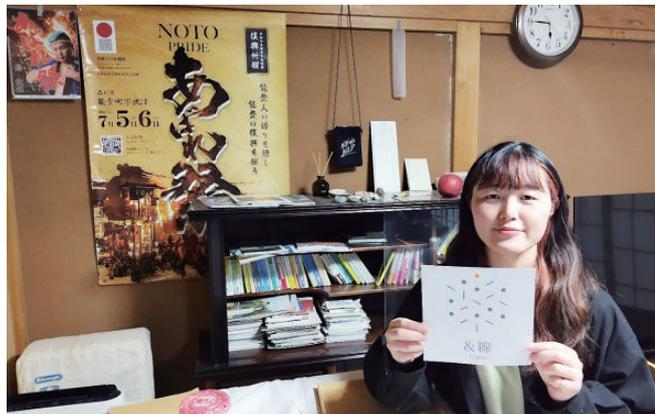
○…出席 欠…冠婚葬祭 通院 私事都合等により欠席 公…他の公務あり 一…対象外 オ…オブザーバーとして議長が出席

月 日	会議名	議員名	小浦 肇	吉田 義法	馬場 等	田端 雄市	金七 祐太郎	南 正晴	市濱 等	小路 政敏	酒元 法子	河田 信彰	向峠 茂人	志幸 松栄	鍛冶谷 眞一
1月17日	広報編集特別委員会		○	○	○	○	—	○	—	○	—	—	—	—	—
1月30日	議会運営委員会		—	○	○	○	オ	—	○	—	—	○	—	—	○
1月30日	議員全員協議会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1月30日	1月会議		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2月21日	能登半島地震復旧・復興連絡協議会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2月27日	議会運営委員会		—	○	○	○	オ	—	○	—	—	○	—	—	○
2月28日	議員全員協議会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月3日	3月定例会議		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月4日	予算常任委員会		○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月5日	予算常任委員会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月6日	総務産業建設常任委員会		○	○	○	—	—	○	—	—	○	○	—	○	—
3月6日	教育厚生常任委員会		—	—	—	○	○	—	○	○	—	—	○	—	○
3月11日	3月定例会議		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月13日	議会運営委員会		—	○	○	○	オ	—	○	—	—	○	—	—	○
3月13日	議員全員協議会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3月13日	3月定例会議		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※吉田義法議員は能登町長選挙に立候補したため、令和7年3月18日付で自動失職となりました。

まちかど

インタビュー



埼玉県から移住し民泊を始めた畑 愛美さん

今回のまちかどインタビューは、崎山2丁目に
お住まいの畑 愛美（は
たまなみ）さんです。
畑さんは、埼玉県出身
で、能登町に移住して約
2年になります。
（インタビューアー
小浦 肇）

民泊で能登の良さを
町内外に届けたい!!

◆能登町に移住したきっかけは。

どこかでゲストハウスをやりたいと各地を旅して半年たった頃「能登ローカルソフトウェアアカデミー」（能登町主催）という未来を拓く講座に参加しました。プレゼンをしたところ、ありがたいことに賞を頂いたことがきっかけです。やりたい夢を実現させてくれる「人」と「場所」に出会えたから移住しました。移住して半年後に震災もありましたが、出会った人達が変わらずこの場所にいるならと迷わず移住を続けています。

◆能登町の魅力は。

能登の皆さんは、生きる力や身の回りの資源から生み出すエネルギーがとても強く、驚くことが沢山あります。そしてそのエネルギーや情熱を仕事にされている能登町の企業は、日本に誇れるものばかりだと移住して身近になったからこそ感じています。想いが伝わり、能登のことをより知りた

◆現在の状況は。

昨年の秋に引越した崎山の住宅で、第一歩として民泊を始めました。訪れた方々と能登を繋げる場所にしていきたいと思っています。

◆将来やりたいことは。

新しい能登の「こと・もの」を能登に住んでいない人が知らない。移住者の方が良く知っている



お客さんと談笑する畑さん

◆町や議会に期待することとは。

これまでの文化を大切にしながらも、将来の能登の為に行動している方々をサポートしてもらえたら嬉しいです。

次の定例会議は6月6日開会予定です。

議会の日程については、決定しだい町のホームページ、町公式LINEでお知らせしています。

編集後記

議会だよりをお読み頂き有難うございます。
今定例会議での一般質問は、議員7名で23点ありました。字数の制約上、町民の皆さまに十分、お伝えできていない点があると考えております。そこで、町民の皆さまが持ちの疑問・課題・情報などを、議員に投げかけて頂けると幸いです。
当号が発行される時期は、ちよど若葉が芽吹き爽やかな気候となるころです。更に、復旧・復興に向け元気に前へ進んで行きましよう。
（小浦 肇）

広報編集	
特別委員会	
委員長	小浦 肇
副委員長	小路 政敏
委員	馬場 雄等
	田端 正晴
	南 茂人
	向峠 茂人

発行：能登町議会 編集：能登町議会広報編集特別委員会
〒927-0492 石川県鳳珠郡能登町字出津ト字50番地1
TEL (0768) 62-8540 FAX (0768) 62-8541